

# 活動報告書

報告者氏名: 谷本 式慶

所属: 東京都立八王子東特別支援学校

記録日: H26年2月14日

## 【対象児(群)の情報】

• 学年 中学部3年

• 障害名 内部疾患、知的障害。

### • 障害と困難の内容

対象生徒は、内部疾患のある身体的にはまひ等のない、軽度の知的障害を併せ有する生徒である。筆記具による筆記・音声会話・歩行等が可能だが、体調が悪いとどれもが難しい。生徒の「皆と同じように学習したい」という強い意思による「無理に机に向かう」、「力が出ないのに一生懸命ノートに記す」等が身体へマイナスに働き、ときに長期の欠席や入院といった事態を招いていた。

## 【活動目的】

### • 当初のねらい

「無理をして体調を崩す生活から抜け出し、体調を保ちながら豊かに生活できるようになる。」

- 長期欠席や入院を防ぐため、体調に応じた学習方法や生活スタイルを身につける。
- 長期欠席や入院時にも活用できるコミュニケーション手段を身につける。
- 体調の変動と付き合いながら将来にわたって継続できる活動を見つける、増やす。

• 実施期間 H24.5～H26.2

• 実施者 岩崎大祐

• 実施者と対象児の関係 対象生徒の担任

「学習や集団参加に対する本人の意思を、体調を維持しながら実現し、将来につなげる。」

## 【活動内容と対象児(群)の変化】

### • 対象児(群)の事前の状況

小学校時代は特別支援学級に在籍していた。進学時に本校の中学部を選択するが、入院中であったために入学直後に一旦院内学級へ転出する。半年の入院を終えて中1の途中より本校に転入するが、体調不良による欠席が目立っていた。



図1

### • 活動の具体的内容

①体調に応じて身体を休めながらも学習（欠席、入院時含）：「ちょこ勉☆漢字 初級」 「ちょこ勉☆漢字

中級」 「ちょこつと勉強 ☆日本地図」 「書き取り日本一周 FREE」 「大下博士の算数教室」 「クイズで覚える都道府県」（配信終了）

②コミュニケーション：「カメラ」、「メール」、「Evernote」、「タンゴ」（3G 可の TV 電話アプリ）

③好きな活動「家庭での料理」 「クックパッド」、「3分間クッキング」

### ①について：

・体調の悪い時に集団の中で一人だけ横になって休みづらいが、iPadがあれば文字入力や学習の継続が可能となり、安心して横になれる（図1）。

・入院、両手への点滴治療中でも、iPadで学習を補うことができた（図2・3）。※入院中の学習期間：比較的体調のよい5月中旬～下旬、6月下旬～7月上旬。※学習頻度：週4日、1日30分程度。

#### ○学習：国語

・「ちょこ勉☆漢字 初級」：漢字検定5級レベルを想定して、小学1年～6年の漢字を全て収録したアプリである。漢字の読みを4択で次々に回答していく形式なので、小さな手の動きでも操作が可能である。正解数がポイントとなり、ポイントをためるとカードがもらえるという仕組みで、継続する意欲が高まり、励みになっている。また、見本を見ながら手書きをすることもできる。女の子のキャラクターが話しかけてくれるので、入院生活にはよかったと考えられる。

・「ちょこ勉☆漢字 中級」：漢字検定3級レベルを想定して、中学校の漢字を全て収録したアプリである。

#### ○学習：社会

・「クイズで覚える都道府県」（配信終了）

・「ちょこっと勉強 ☆日本地図」

・「書き取り日本一周 FREE」：日本地図から出題される、都道府県、山、湖、半島などの名前への質問に、「書き取り」には手書きで、「パズル」にはドラッグで答えるゲーム形式のアプリである。「書き取り」の県名については、出題エリアと、コース選択（初級・中級・上級）ができ、県境のみが記載された日本地図の中で1つだけ違う色になっている都道府県名を答える。上級では都道府県名を全て手書きで答える必要があるが、初級では最初の1文字目がヒントとして表示されるために都道府県名が想起し易くなり、また、手書きの文字数も減る。対象生徒は初級コースで正解しながら学習を進められたので、達成感を得ながら学習を継続することができた。

### ②について：

・「メール」：文章、写真、動画 学校と対象生徒との間でメールのやりとり（図4）。

・「Evernote」：同一アカウントで簡便に、写真・文書をリアルタイム共有（図5）。

・「タンゴ」（3G可のTV電話アプリ）：TV電話の技術を習得した（図6）。

※病室内では通信機能をオフにすることで、使用許可を得た。設定→モバイルデータ通信→オフ（図7）。（メ



図2



図3

ールの送受信は、基本的に保護者が通信可能エリア等で行った。)

### ③について：

・「クックパッド」「3分間クッキング」iPad で見つけたレシピを使用して、好きな調理を家庭で継続して行っている（図8）。

・料理のEvernote アップロードは、7月退院以降途絶えずに継続している（表1）。

### ・対象児(群)の事後の変化

・iPad を利用しながらの家庭での調理が、継続して行える好きな活動となった。

・遅刻早退が増加し、欠席が減少した。

- 遅刻・早退による登校調整や体調不良時の欠席は、当日の体調をみながら対象生徒自身が保護者と相談して決定できるようになった。

・学習がこれまでよりも進み、以下の内容を習得できた。

- 漢字検定7級（小学4年生相当）の漢字を8～9割（7級合格）。
- 全都道府県名。
- 県庁所在地と県の形による県名（北海道から中部地方まで）。（「山形は人の横顔」「静岡は金魚」「大分はシイタケ」など、特徴をとらえて覚えている。）

・コミュニケーションスキルを身につけ、家庭や病院からでも連絡ができるようになった。



図4

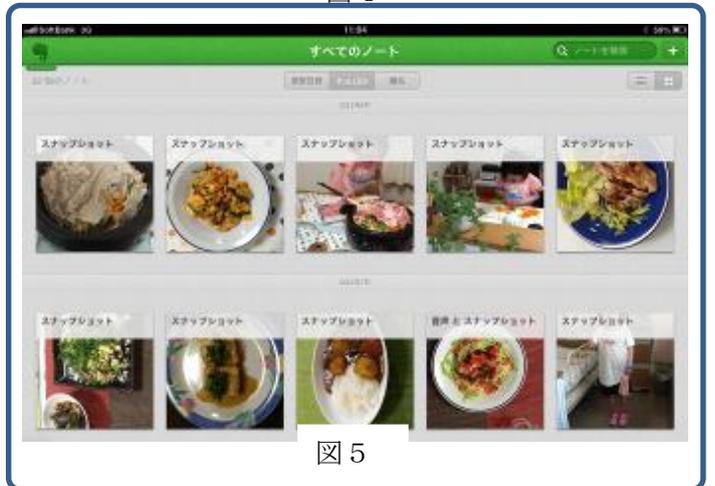


図5

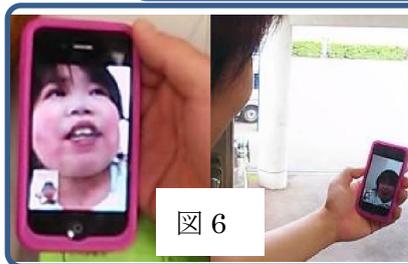


図6



図7



図8

家庭で作った料理

## 【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき対象生徒は iPad によって以下の内容を身につけたのでは、と考えている。

・身体への負担が少ない新しい学習スタイルを身につけ、学力が向上した。・コミュニケーションツールの操作方法を覚え、必要などときには即使用できるようになった。（ツールへの過剰依存といった利用上の課題はない。）

・通常的生活でも入院生活でも、場面に応じて iPad を道具として活用することができた。

・iPad を活用した家庭での料理を継続しており、将来にわたって継続できる重要な活動の1つを身につけることができた（表1）。

・上記3点によって、安心して「無理しない」生活ができるようになったのではないだろうか。

### ・エビデンス(具体的数値など)

・「iPad を活用した家庭での料理の継続」については、表1の「料理の Evernote アップロード回数」から、変動はあるが継続していることが読み取れる。

また、「気づき」に記載した事柄によって体調を保持できたことが、iPad 導入前後の欠席日数比較（表2）から読み取れる。同時に、登校調整による遅刻・早退の増加も読み取れる。（表2）

### ・その他エピソード(画像などを含めて)

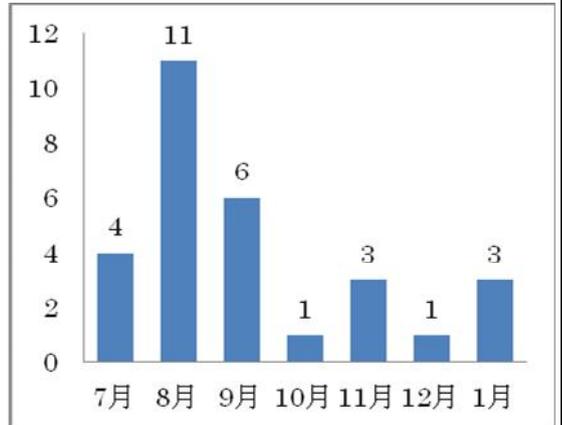


表1 料理の Evernote アップロード回数

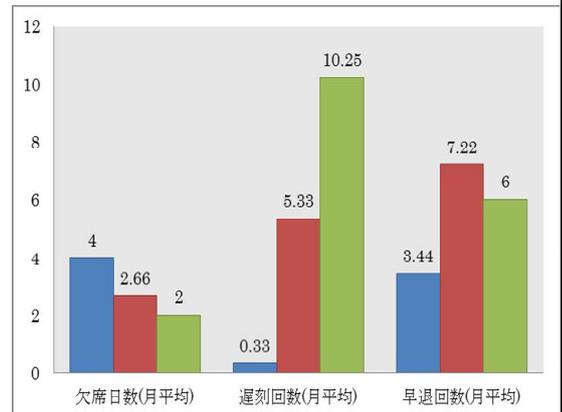


表2 対象生徒の出欠状況（入院期間を除く）

『iPad を使い、「横になりながら授業を受けてもいいんだ。」という気持ちから心の負担が減り、「体調悪いけど登校しよう。」となっていると思います。自分からなかなか横になりたいと言えない。お友達の目が気になる。先生が「〇〇さん、辛かったら横になって」と言われても我慢してしまうが、「横になって iPad の学習を進めて下さい」と言ってくださると素直に応じられる。「登校したからには座って全部頑張らなければいけない」が、「横になって iPad 学習すれば良い」となり、「体調悪くて頑張れないから休む！」から「体調悪いけど、行ってみよう！」になったかな？と思います。』

保護者からは以下のコメントがある。

- ① 『夕飯が決まらないときに、iPad で「クックパッド」や「キューピー3分クッキングのアプリ」で決められる。』
- ② 『料理を作るときに、台所のテーブルに置いて、見ながら作れるので便利。』
- ③ 『料理が完成したら「Evernote」で写真をとれる事が良いです。』

また、対象生徒へ iPad の感想を自由意見として尋ねたところ、と述べている。以上から、iPad を必要に応じて使用する自分の道具とすることで、当初のねらい「無理をして体調を崩す生活から抜け出し、体調を保ちながら豊かに生活できるようになる。」に向けて着実に前進することができているのではと考えている。